

Hiroataka Maeda

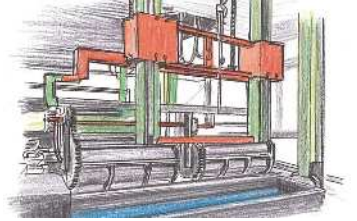
前田 浩 孝

前田鍍金株式会社 代表取締役



品質と生産性を高めてMADE IN JAPANを守る

めっき加工において30年以上の経験を通じて培ってきたノウハウに基づく、バレル方式による電気亜鉛めっきの特殊加工技術を持つ。大阪府鍍金工業組合においては技術委員を長年務め、講習会で受講者に実技指導を積極的に行うなど、業界の後継者育成に尽力している。



輝く部品の奔流

前田さんの工場に入ると、めっき工程を終えた大量の部品がバレルから一気に流れ落ちる大きな音に出迎えられた。部品を入れられたバレルが、オートメーションで、前作業からめっき後の作業工程までバレルごとに一気に進むのだ。きれいにめっきされた部品の輝きと音の奔流に圧倒されてしまった。



めっきされた部品が大きな音をたてて流れ落ちる。



オートメーションでバレルが次々と溶液の中をもぐっていく。

めっき加工を支える熟練工の経験と知識

自動車から小さなアクセサリ、スマホ、PCなど、日常生活の中でもめっきされたものは大量にあり、めっき加工が無ければ世の中は成り立たない。

しかし、これだけ世の中に当たり前になりながら、熟練工の独自に蓄積されたノウハウや知識に負うところが大きいのがめっき加工だ。

そのうえ前田さんは、大量の多種多様な部品を同時に処理することや、初めての部品でもこれまでの経験に基づき、適正な電圧やバレルへの部品投入量を調整できる技能を持っている。その結果良い品質を保ちつつ生産性を上げることができている。

自動車メーカーの求める高品質レベルをクリアしていく

めっき製品の中でも、自動車メーカーの求める品質レベルは高い。前田さんは、その要求に応えるべく、創意工夫してクリアし

ながら技術レベルを上げてきた。「その時は苦しかったけれど、長い目で見ればありがたいことだった。」と当時を思い起こし笑う前田さん。

「これからのものづくりは品質が勝負。同業はもちろん他業種企業とも競争ではなく交流して、互いにレベルアップを図らないと国際競争には勝てない。日本が世界に負けないようにMADE IN JAPANを守ってほしい」と次世代へ期待している。

手を抜かない品質管理が大切

めっきには前作業、後作業も含め多くの工程があり、高品質を保つにはそのいずれにも手を抜くことはできない。自社の機械は全て清掃からメンテナンス、修理まで自分たちで行う。洗浄液の汚れは品質の低下につながり、排水処理は環境問題にもつながるので、十分な知識と管理が必要。機械の修理は一度業者のやり方を見て覚えたそうだ。さすがテクノマスターだ。



排水処理も大切な仕事。都度状況判断して処理の設定を変える。

めっきの一瞬の変化に感動

めっき体験のイベントにおいて、めっきするまでの前作業から自分でしてもらう。一瞬で美しく変化するのを見て感動してもらえるのと同時に、丁寧に前作業するほど良い仕上がりになることを実感してもらえ、めっきの大変さを少しでも理解してもらえるのが嬉しいと前田さんは話す。



少量なら道具（ひっかけ）を用いてめっきをする。

所属企業 前田鍍金株式会社

〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3丁目8-24 TEL : 06-6471-0071 FAX : 06-6473-6458



大阪テクノマスターとは…大阪市内のものづくり企業で活躍する“ものづくり”のスペシャリスト。

問合せ先 ▶ 大阪市 経済戦略局産業振興部産業振興課 〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル オズ棟南館4階 TEL : 06-6615-3761 FAX : 06-6614-0190